

2019 年度 実習調整者 目的・目標・振り返り

実習調整者：土井

【目的】実習計画の立案・連絡・調整を行うことで実習環境を整え、学生がよりよい実習を行うことができるよう支援する。

目標	内容	振り返り
1. 学生の医療安全・倫理的配慮に対する意識を高め、安全な実習環境づくりができる。	<p>1) 医療安全に対する意識を高めることができる指導の検討と実施</p> <p>2) 倫理的配慮に対する意識を高めることができる指導の検討と実施</p> <p>(1) 各学年倫理に基づいて行動するように働きかける。</p> <p>3) 安全な実習環境づくりの検討</p> <p>(1) ヒヤリハット・事故報告の状況把握と分析</p> <p>(2) ウィルス抗体価検査の整理とワクチン接種の推奨</p> <p>4) 検討して実施している対策の評価を行う。</p>	<p>日々の生活の中で倫理を考えながら行動するよう指導を行った。校内で SNS の問題など起こることなく過ごすことができた。</p> <p>ヒヤリハットの報告の件数は、前年度より 1 件多かった。内容は、説明の取り違い、不十分な理解によるものが発生しており、学生に伝えるときには十分分かりやすい説明をすることが必要であることが分かった。</p> <p>指導者会議にて指導者・教員でこの内容を共有し、ヒヤリハットの再発を防いだ。</p> <p>ウィルス抗体価検査の整理とワクチン接種の推奨を行っていった。ほとんどの学生が実習前までに予防接種を終了することができた。</p>
2. 各実習担当教員と連絡を取り合い、学生の実習目標達成度を把握し、指導方法の検討を行い、単位未修得者が減少する。	<p>1) 実習・看護研究を通して、自己の看護観を明確にできているかを問いかけ、実習終了後に向けてより学習効果を上げるよう意識を高める。</p> <p>(1) 共通要項・危機管理要項・病院環境と生活を理解する実習・日常生活援助実習・領域別実習のオリエンテーション</p> <p>(2) 教員会議での検討</p> <p>(3) 基礎看護技術習得調査</p> <p>(4) 領域別実習前期・後期終了後の振り返り</p> <p>2) 各学年担当の教員とクラスの特徴や学生状況、学内とのつながりなど打ち合わせを行い、実習に生かす。</p> <p>教員間での報告・連絡・相談の徹底</p> <p>ストレスコントロール力が弱い学生への対応</p> <p>3) 基礎看護学実習の評価表の作成・使用・評価を行う。</p>	<p>各領域の担当、学年担当と協力しながら実習指導に取り組んだ。</p> <p>領域別実習の昨年度からの単位再履修者は 4 名いた。うち 3 名が単位の履修ができ卒業となった。しかし、1 名は退学した。</p> <p>本実習不可は領域別実習で 7 名、日常生活援助実習で 3 名、病院環境と生活を理解する実習で 1 名いた。うち、再実習を実施したが履修できなかった学生は、領域別実習 1 名、病院環境と生活を理解する実習 1 名、再実習を行わなかった学生は領域別実習 4 名であった。学生個々で課題は異なるが、教員間で課題の共有を行いながら指導者と相談しながら実習指導を行った。今後も学生個人の課題に対応できるように情報交換しながら指導していく。</p> <p>昨年度から病院環境と生活を理解する実習、今年度から日常生活援助実習にパフォーマンス評価を取り入れ評価表を作成し実</p>

	<p>(1) 病院環境と生活を理解する実習の評価を行う。</p> <p>(2) 日常生活援助実習の評価表を完成・実施と評価。</p> <p>4) 領域別実習の評価表の作成を行う。</p>	<p>施した。自ら学ぶ姿勢を育てたい、実践力を身につけた学生を育てたいという意図で実施した。学生にその意図が伝わるように指導し、実践できた学生もいたが課題が残る学生もおり様々だった。今後も評価表の改善を行っていく必要がある。</p> <p>来年度の領域別実習の評価表が作成できた。指導者の協力のもと実施していく。</p>
<p>3. 学校側、臨床側の考えの意見交換ができ、お互いが連携し、やりがいを持てる実習指導を行うことができる。</p>	<p>1) 実習指導者会議や実習振り返り・説明会の内容と方法について検討する。</p> <p>(1) 指導者に学生の声を伝えるとともに、教員からも指導者の良い指導場面を他の指導者に伝えられるようにする。</p> <p>(2) 互いの意見や考えを自由に伝えられる指導者会議・指導者研修会の内容・方法の検討を行い、実施していく。</p> <p>(3) 学生の評価について実習期間の中間・最終に指導者と意見交換する時間を設け、学生に合わせた指導方法を考え、指導者と協力し指導していく。</p>	<p>実習指導者会議は予定通り実施できた。今年度は来年度パフォーマンス評価を取り入れた領域別実習の説明があり、事前に指導者の意見を聞けるように議題を挙げ検討につなげることができた。</p> <p>学生の評価は、指導者と中間評価を行い、指導方法を検討しながら行うことができた。</p> <p>基礎看護学実習では、最終評価を指導者と教員で相談しながら行ったため、お互いの視点を取り入れた評価を行うことができたと考える。</p>
<p>4. 実習の振り返り・評価を行い、実習内容・方法・環境調整を行うことができる。</p>	<p>1) 実習の指導後の振り返り・評価を行い、次年度の実習へ活用する。</p> <p>(1) 学生・指導者・教員それぞれの視点から振り返りを行い、指導者会議にてディスカッションを行う。具体的な改善点・指導方法を挙げ、学生指導に生かす。</p> <p>2) 実習病棟別の実習方法（報告・技術試験・物品置き場等）を把握し、整理する。</p>	<p>尾道市立市民病院の実習時、物品の不足が課題であった。学生用物品を準備し、学生が基本に沿って援助の実施ができるよう整えることができた。</p> <p>技術の習得については、患者の在院日数の減少や学生の積極性の課題から技術試験を受ける機会が減少しており、技術の習得に課題があった。来年度から技術試験ではなく、学生自ら技術のリフレクションを行い指導者に助言を受けるといった形をとる経験録に変更した。今後技術習得ができるよう支援していきたい。</p>